

県内の死亡事故の特徴

1 死者の半数以上が高齢者

年代別では、65歳以上の高齢者が44人中24人（54.5%）で、半数以上を占める。

2 歩行中の事故が多い

- 状態別では、42件のうち15件が歩行者事故で、うち8件が道路横断事故である。
- 道路横断中の事故8件のうち5件は、車から見て右から左の横断である。
- 歩行者事故15件のうち14件は夜間事故で、列車事故を除く13件の車のライトはすべて下向きである。

また、夜間歩行中死者14人中11人は反射材を活用していない。

3 夜間の事故が多い

- 昼夜別では、夜間が42件中28件で、6割以上を占める。
- 夜間事故28件のうち、13件が人対車両、8件が車両単独、4件が車両相互、2件が自転車対車両、1件が列車事故である。